

# 特集 救急コースガイド 2025

あの「救急コースガイド」が、2018年以来7年ぶりに帰ってきた！

標準化教育を目的とした off-the-job training (Off-JT)、研修会や講習会、セミナーの多様性は、救急医学/救急医療領域の一つの特色ではないでしょうか。心肺蘇生や外傷診療、災害時対応などなどなど…。さまざまな分野の Off-JT が全国津々浦々で開催され、救急医学/救急医療の普及や質の向上に一役買っていることは、間違いありません。

でも、色んなコースがたくさんあって、名称もアルファベットの羅列で何となく似ているし、どれが何のコースかパッとわからない…。どのコースを受けたいのか判断がつかない…。そんなあなたにお届けするのが、この特集「救急コースガイド」です。

本特集では、編集部独自調査のもと、日本国内で開催されている救急分野関連の Off-JT で、近年の開催・公募実績があり受講可能なものを約50コース取り上げ、その概要を紹介します。各コース見開き2ページのカタログ的な構成で、コースの内容・ジャンルはもちろん、受講対象・要件や費用、所要時間、受講の申し込み方法などをコンパクトにまとめました。簡潔に記載されたコースの習得目標・エッセンスを読めば、そのコースで実際にどんなことを、どんなふうに学ぶことができるのか、特色や工夫も含めて理解できるでしょう。

自己研鑽のため、あるいは資格取得のために特定の Off-JT を探したいとき。はたまた、「こんなコースがあるのか！」と興味本位で Off-JT を受けてみようと思ったとき。各コースの魅力が詰まったこのガイドが、きっとあなたのお役に立つことを願っています。

本特集では原則的に、取り上げたすべてのコースを同じフォーマットの見開きページで紹介しています。  
各コースの紹介を読む前に、まずはここで表記の統一ルールやアイコンの意味などを確認し、適切に情報を吸い上げ、役立てていただけるよう、「読み方・活用法」としてまとめました。

■研修分野タブ■

各コースの研修分野が一目でわかるように、端的に表現されています。  
自分が興味のある分野のコースを探すときに役立てよう。

■開催実績エリア地図■

各コースの開催歴があるエリアを地図で示しました。実際に自分が参加できる地域でコースが開催されているかをチェックしよう。  
なお、詳細な開催地は各コースのホームページなどを確認してください。

■1回当たりの受講者数■

コースの規模感の指標として、1回当たりのおおよその受講者数をアイコンで示しました。

■コース所要時間■

コース受講に要する時間をアイコンで表現しました。  
時計は時間単位表示、日めくりカレンダーは日単位表示となっています。

■発刊物情報■

テキスト、ガイドブックなどコース関連書籍の情報。受講時に必要なテキスト、あるいは予習・復習に必携の参考書をチェックしておこう。

■二次元コード■

スマートフォンなどで読み取れば、各コース独自のホームページや、主催団体のホームページに直接リンクできます。

■コースの名称、基本情報■

各コースの基本情報として、正式名称・略称とその読み方、主催団体やコース開始年などをまとめました。普段から耳にしている・口に出している略称だけでなく、正式名称やその意味についても、ここで確認しておこう。

特集 救急コースガイド2025

精神科

PEEC  
ピーク Psychiatric Evaluation in Emergency Care  
救急医療における精神症状評価と初期対応

since 2013

主催：日本臨床救急医学会

身体科救急医療スタッフが精神症状を呈する救急患者に初期対応するための、標準的な知識・技能・対処法を身につけるためのコース。

▶ 開催実績エリア  
北海道 東北 関東 中部 近畿 四国 九州 沖縄

▶ コース種別  
なし（関連コースとして PPST あり、本特集 p. 84 参照）

▶ 受講対象の職種、資格、要件等  
看護師、研修医、若手医師などの救急医療スタッフを中心に、保健師、救急隊員（救急救命士）、学生、MSW、臨床心理士など

▶ 受講料  
8,000円が標準的（開催主体によって異なる）

▶ コース所要時間  
4～4.5時間半  
4 hours

▶ e-learningの有無、扱い  
なし

▶ オンライン受講の可否  
可能（一部コースはオンラインで可）

▶ 認定制度・資格関係  
認定制度：修了証発行  
筆記試験/実技試験：いづれもなし

▶ 専門医・認定医資格の取得・更新要件との関連  
救急科専門医更新基準 救急科領域講習（その他学会が認める Of-IT）として申請可

▶ 受講の申し込み方法  
日本臨床救急医学会ホームページ内の PEEC 紹介ページで開催予定・申し込み方法などを公開

▶ テキスト  
PEEC ガイドブック  
改訂第2版  
発行2018年  
へるす出版  
¥3,520円（税込）

▶ 問い合わせ先  
日本臨床救急医学会 事務局  
Tel: 03-3380-2704  
Mail: jsem\_jimu@herusu-shuppan.co.jp  
ホームページ: https://jsem.me/training/peec.html

■問い合わせ先■

興味をもったコース、参加したいコースが見つかったら、ここを参照して、より詳細な情報入手しよう。なお、各コースの詳細についてはへるす出版へお問い合わせいただいても回答いたしかねますので、ご注意ください。

## ■コースの目標と概要・エッセンス■

何を目的としたコースで、どんな目標を掲げているのか、そのためにどのようなプログラムが組まれていて、どのような特徴があるのか、実際のコースの“エッセンス”が記されています。参加する前にしっかりチェックして、コースへの理解を深めよう。

### コースの習得目標・到達目標

PEEC コースの目標は、コンサルトする精神科医のいない状況で、少なくとも翌朝（あるいは週明けの朝）まで、精神症状を呈する救急症例に対し、安全かつ適切な標準的初期診療を提供できるようになることです。行動目標（一部抜粋）は以下のとおりとなっています。

- ・既往歴、持参薬、現病歴から、ある程度の精神科的背景を推察できる。
- ・診療中の患者の安全、医療者側の安全を確保する方法がわかる。

### コースの概要・エッセンス

PEEC コースでは、冒頭にも20分程度、救急医による基本的事項を学ぶための講義を行います。その後、1グループ受講者6～8人に分かれて、症例検討を開始します。症例は合計4例（1例あたり45分程度）で、全例が精神症状を伴い、救急医療を受療する場面を想定したものです。症例ごとに動画を視聴したあとに問題点が提示され、どのように初期診療を行い、どのように精神科医療や地域の支援者につなげていくことが望ましいか、グループディスカッションを行っていきます。

各グループには、コースファシリテーター（精神科医）とコースアシスタント（過去にコースを受講した看護師、救急救命士、心理職、ソーシャルワーカーなど）が担当スタッフとして配置され、担当スタッフの進行のもと、受講者がさまざまな意見を出していきます。その後、ある程度意見が出揃ったところで、コースファシリテーターによる解説、という形で症例検討が進行していきます。「正しい対応方法はたった1つだけ、というわけではない」という点が精神症状への対応の難し

さでもあり、奥深さでもあるため、スタッフにとっても、コース参加のたびに新たな発見があります。コーススタッフと同様に、グループ内の受講者も複数職種で構成されるため、それぞれの立場ならではの視点や対応方法、現状での課題を共有することもでき、受講者同士の間でも新しい学びや気づきを得ることができるのも、本コースの大きな特徴であると考えています。

また、地域に密着したコースであれば、本コースへの参加をきっかけに受講者とスタッフ、また受講者同士の顔のみえる関係の構築につながる可能性もあります。コース受講後に、実際の患者（傷病者）対応の場面でこの関係性が活かされ、よりよい連携につながることも期待しています。

なお、症例検討については新しい症例の開発も行っており、将来的にはコースや地域ごとに必要性が高いと考えられる症例を選択する形でコースを開催できるようにすることを目指しています。また、病院前救護を主な対象とした PPSST コース（p.84参照）も関連コースとして展開中です。あわせて受講をご検討ください。

・症状に応じた薬剤の選択、投与方法、副作用への対応がわかる。

- ・外来診療後に帰宅可能か、入院加療が必要かを判断できる。
- ・自殺企図患者に対し、再企図を予防しつつ安全な入院管理ができる。
- ・違法薬剤の使用、薬物依存への法的問題に対処できる。
- ・他職種のスタッフと協力し、患者の社会的背景の理解とその問題に対処できる。

医  
看  
薬  
放  
検  
救  
消  
警  
自  
学  
他

## ■コース対象タブ■

あなたの職種がそのコースの受講対象かどうかが一目でわかるように、対象職種をタブで表示しています。表記ルールは以下のとおりです。

医：医師  
看：看護師・准看護師  
薬：薬剤師  
放：診療放射線技師  
検：臨床検査技師  
救：救急隊員・救急救命士  
消：消防職員  
警：警察官  
自：自衛官  
学：学生  
他：とくにその他の職種を含む

バラバラと開きながらタブを見て、まずは自分が対象のコースからチェックするのもよいかもしれません。

## ■専門医資格・更新等との関連■

専門医・認定医資格などの取得・更新要件となっている場合には、その資格名を示しています。ただし、要件の詳細や最新の情報・状況は、必ず関連学会・団体に確認してください。

# DIRECT-REBOA セミナー

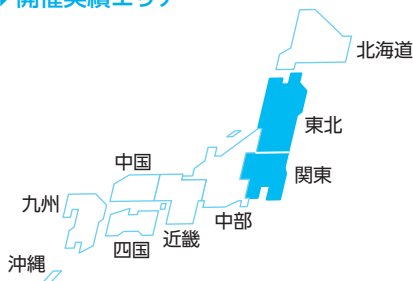


ディレクトリボアセミナー DIRECT Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of Aorta Seminar

主催：DIRECT 研究会

REBOA について、適応や手技の実践にとどまらず管理や合併症対策まで習得する、救急医や放射線科医師などを対象に開発された日本独自のトレーニングコース。

## ▶ 開催実績エリア



## ▶ 開催回数

2023年：2回  
2024年：2回

## ▶ 1回当たりの受講者数

12~16人



## ▶ 延べ受講者数

238人

## ▶ コース種別

オンラインコース、ハンズオンコース

## ▶ 受講対象の職種、資格、要件等

オンライン：REBOA 操作を学びたい救急医、外科医、放射線科医等  
ハンズオン：オンラインコース受講者

## ▶ 受講料

オンライン：10,000円、ハンズオン：20,000円

## ▶ コース所要時間

5時間（オンライン/ハンズオンともに）



## ▶ e-learning の有無、扱い

あり（オンラインコースとして）

## ▶ オンライン受講の可否

オンラインコースは完全オンライン受講

## ▶ 認定制度・資格関係

認定制度：なし  
筆記試験/実技試験：なし

## ▶ 専門医・認定医資格の取得・更新要件との関連

救急科専門医救急科領域講習2単位、日本 IVR 学会専門医更新単位3単位（DIRECT セミナー）

## ▶ 受講の申し込み方法

DIRECT 研究会のホームページより申し込み

## テキスト

DIRECT REBOA セミナー  
公式テキスト  
REBOA ハンドブック  
改訂第2版

- 発行2024年
- へるす出版
- 6,600円（税込）



## 問い合わせ先

DIRECT 研究会（済生会横浜市東部病院救命救急センター内）

Mail：funabiki@j7.so-net.ne.jp  
ホームページ：http://direct.kenkyukai.jp/about/



## コースの習得目標・到達目標

大動脈遮断デバイス REBOA の重要性が指摘されて久しいものの、日本ではその適切な使用法や合併症に関する標準的な手順、知識の体系化が進んでおらず、各臨床医の判断に基づいて実施されている現状です。本セミナーでは、REBOA の使

用が想定される医師の参加を募り、学習および情報交換の場を提供することで、急性期医療の質のさらなる向上を目指します。内容は REBOA の適応および実施の理解にとどまらず、実施中の管理や合併症への対処についても網羅しています。

## コースの概要・エッセンス

オンラインコースでは、REBOA の各トピックについて学びます。

基礎知識のセクションでは、出血性ショックに対する大動脈遮断の意義や歴史、そして REBOA の基本的な手技について解説します。REBOA は横隔膜下の動脈性出血の一時的制御に有用ですが、止血手段そのものではなく、根治的止血の遅延を避けるべきことを強調しています。

また、非外傷性の適応として、産科出血や腹部大動脈瘤の破裂など外傷以外の病態に対する使用についても取り上げます。さまざまな適応や実施時の注意点について学び理解を深めます。動脈アクセスに関しては近年、中心静脈カテーテルと同様に、超音波ガイド下での穿刺が標準的となっています。超音波ガイド下での基本手技に加え、動脈アクセスが困難な場合のカットダウン法についても説明します。

手技については、バルーン挿入から拡張後の管理、カテーテル抜去に至るまでの基本事項を学び、各段階における tips もインストラクターから共有します。また、REBOA の不適切な使用は重大な合併症を引き起こす可能性があるため、手技の各段階における合併症とその予防対策についても取り上げます。

「RT と REBOA」のセクションでは、REBOA 以外に開胸・開腹での大動脈遮断が古くから使用されていることに触れ、病態によって異なる適応とする大動脈遮断の選択について学びます。とくに、開胸大動脈遮断と REBOA の使い分けについて詳しく説明します。

各レクチャーは20分程度に区切り、一方的な講義にとどまらず、知識を深めるためのグループディスカッションも行います。ディスカッションを通じて、参加者施設での緊急止血に関する組織体制や REBOA 実施時の工夫を共有し、個人スキルだけでなく、施設全体の対応を議論します。

ハンズオンコースは、オンラインセミナー受講者を対象に、別日に半日程度で開催します。オンラインセミナーで学んだ内容を実践するため、シミュレーターを使用した超音波穿刺や、REBOA の穿刺・挿入を少人数のグループで学びます。さらに、外傷・非外傷合わせてさまざまな REBOA 使用場面を想定し、シナリオに基づいて REBOA の適正使用のシミュレーション実習を行います。

オンラインコースとハンズオンコースの両方を受講していただくことで、REBOA の適切な実施と管理方法などを修得することが可能となります。

# J-MELS アドバンスコース



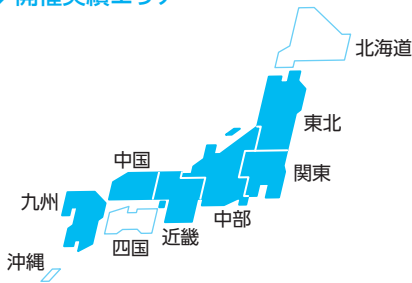
ジェイメルスアドバンスコース Japan Maternal Emergency Life Support Advance Course

母体救命アドバンスコース

／主催：日本母体救命システム普及協議会 (J-CIMELS)

“妊産婦の重症病態”に不安なく、内因性・外傷・中毒などのいかなる疾患にもチームで病院総合力を発揮し、母体救命できるように訓練する急変対応コース。

## ▶ 開催実績エリア



## ▶ 開催回数

2023年：8回  
2024年：7回（1～7月）

## ▶ 1回当たりの受講者数

4人（1ブース当たり）



## ▶ 延べ受講者数

614人

## ▶ コース種別

なし

## ▶ 受講対象の職種、資格、要件等

医師、助産師

## ▶ 受講料

25,000円

## ▶ コース所要時間

4時間



## ▶ e-learningの有無、扱い

現時点ではなし（オンラインでのプレテストを今後導入予定）

## ▶ オンライン受講の可否

不可

## ▶ 認定制度・資格関係

認定制度：あり  
延べ認定者数：614人  
認定料：3,000円（コース登録料・認定料込み）  
認定有効期間：3年間  
筆記試験/実技試験：あり/なし

## ▶ 専門医・認定医資格の取得・更新要件との関連

インストラクター資格は救急科専門医取得の加点対象ほか、現在協議中（母体・胎児専門医）

## ▶ 受講の申し込み方法

J-CIMELS ホームページより申し込み

## テキスト

J-MELS 母体救命  
Advanced Course Text  
改訂第2版

- 発行2024年
- へるす出版
- 14,300円（税込）



## 問い合わせ先

日本母体救命システム普及協議会 (J-CIMELS)

Tel : 03-3269-4739

Mail : jcimels@gmail.com

ホームページ : <https://www.j-cimels.jp>



## コースの習得目標・到達目標

J-MELS アドバンスコースでは、母体急変に対応するための多領域のスキル (S)、いかなる重症母体にも対応できる系統的な診療アプローチ (A)、そして、医療チームとしてチームパフォーマンスを最大限に発揮するためのマネジメント (M)、という母体救命に必要な不可欠な3つの要素である“SAM コンセプト”について習得し、さ

らに各医療機関における課題検討と継続的な解決策を提案できるようになることを目標としています。

到達目標として、上記の SAM コンセプトの理解を深め、多職種連携を前提とした質の高い救急診療を実践することで、防ぎ得る母体死亡/障害を回避することを目指します。

## コースの概要・エッセンス

J-MELS アドバンスコースは、主に高次医療機関において転院搬送された重症母体を救命するために必要なコンピテンシーを明確化し、効率よく教育するために、J-CMELS が開発した成人教育コースです。

受講にあたっては、テキストで事前学習のうえ、オンラインでプレテストを受けていただきます。コース当日は、短時間の講義で系統的な診療アプローチに関して学んだあと、シナリオに基づく実践的なシミュレーションを行います。産科危機的出血や妊婦の心停止など、重症母体症例をリアルな臨床現場を想定した状況下で体験することで、母体救命に関するスキルと知識を高めることができます。

インストラクターとして各ブースに産婦人科医と全身管理医（救急医や麻酔科医）が必ず配置され、デブリーフィングでは類似症例などに触れながら、さまざまな視点で受講者と議論を行います。受講者の所属施設の地域における役割や診療体制、設備などの違いを考慮しつつ、限られた医療資源をどのように活用し、最大のパフォーマンスを引き出すかについても考えます。

座学で学習する系統的診療アプローチは、疾患の種別（産科疾患、内因性疾患、無痛分娩合併症、外傷など）によらず、すべての重症母体に使用できる普遍的な診療アプローチとなっており、①第一印象、② primary survey：ABCDEF (P) 評価、③ secondary survey：緊急検査、病歴聴取、身体診察という3つのフェーズに分かれています。

また、実技では以下のような内容について学習することができます。

- ・4つのシナリオを用いたシミュレーション：産科危機的出血、妊婦のけいれん、妊婦の心停止、呼吸不全とショック。
- ・POCT (point of care testing) の評価法。
- ・FASO (focused assessment with sonography for obstetrics) の評価法。
- ・産科危機的出血時の輸血療法と凝固障害に対する治療戦略。
- ・中枢神経障害の評価。
- ・妊婦けいれん時の初期対応プロトコル。
- ・蘇生的帝王切開。
- ・重症母体の鑑別診断。
- ・チーム医療におけるピットフォールの理解。
- ・医療機関内のシステムづくり。
- ・マネジメント (medical resource management)：状況認識、意思決定、ワークロード、チームワーク、コミュニケーション。